

—— 第 28 回学術大会報告 ——

一般社団法人日本老年歯科医学会第 28 回学術大会報告

一般社団法人日本老年歯科医学会第 28 回学術大会は、平成 29 年 6 月 14 日（水）から 16 日（金）の 3 日間の日程で、愛知県名古屋市の名古屋国際会議場にて行われた。メインテーマは、「治し支える歯科医療」であった。櫻井 薫大会長（東京歯科大学老年歯科補綴学講座 教授）、角 保徳実行委員長（国立長寿医療研究センター歯科口腔先進医療開発センター センター長）、上田貴之準備委員長（東京歯科大学老年歯科補綴学講座 准教授）と主幹の東京歯科大学老年歯科補綴学講座の担当で準備と当日の運営が行われた。また、今回は 2 年に一度の日本老年学会の合同開催の年であり、第 30 回日本老年学会（総会）、第 59 回日本老年医学会学術集会、第 59 回日本老年社会科学会大会、第 40 回日本基礎老

化学会大会、第 32 回日本老年精神医学会、第 16 回日本ケアマネジメント学会研究大会、第 22 回日本老年看護学会学術集会との共催であった。

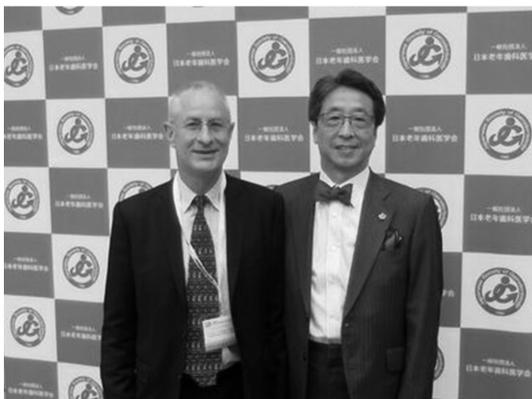
第 30 回日本老年学会（総会）では、小宮山 宏先生（三菱総合研究所）による「プラチナ社会の実現と活力ある長寿社会」と題した特別講演が開催された。現代では量的な豊かさは飽和状態であり、これからは質的な豊かさになってくる、高齢者は適性と能力と希望に応じて自由に働くことのできる参加型社会をつくるのが活力ある長寿社会をつくることになるとのメッセージが発せられた。また、第 30 回日本老年学会（総会）会長の大島伸一先生（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 名誉総長）による「『治し支える医療』へ向けて、医学



第 30 回日本老年学会（総会）の大島大会長（右）と分科会 7 学会の大会長



教育講演を終えた演者の伊藤加代子先生（中央）、座長の岩佐康行先生（右）と櫻井大会長



特別講演者の Pinchas Cohen 先生（左）と座長の櫻井理事長



入門セミナー 1 の講演を行う森 直治先生



満席の白鳥ホール



優秀ポスター賞の発表風景



入門セミナー2の講演を行う前田圭介先生



主幹の東京歯科大学老年歯科補綴学講座のスタッフ一同



入門セミナー3の講演を行う深山治久先生

と社会の大転換を」と題した会長講演があり、最新の診療技術を追うだけでなく、その後に高齢患者を支えるシステムづくりを早期に行わなければならないと強調された。また、17題の合同シンポジウムが開催され、そのうち2題について本会が主幹で開催し、12題について本会より演者を派遣した。また、合同ポスター発表に本会より3題を推薦した。

本会のプログラムは、特別講演1題、教育講演1題、入門セミナー3題、シンポジウム3題、委員会シンポジウム4題、ランチョンセミナー4題、課題口演10題、一般口演43題、優秀ポスター発表15題、一般ポスター発表155題、認定医審査ポスター

発表46題、摂食機能療法専門歯科医師審査ポスター発表13題であった。毎年多くの新入会員を迎える本会の動向を反映し、教育講演や入門セミナーには多くの参加者が集まった。また、各シンポジウムも好評で、熱のこもった講演や白熱したディスカッションが繰り広げられた。

最終的には1,900名を超える方に本会にご参加をいただいた。たいへん多くの方にご参加いただき、心から感謝申し上げます。一方で、会場の混雑でご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。なお、第30回日本老年学会（総会）全体の参加者数は9,000名以上となり、老年学と老年歯科医学への関心の高さを改めて認識させられた。

開催準備から当日の運営まで、座長、演者の先生方、各委員会、関係者の皆さま、ご参加の皆さまのご支援のおかげで成功裏に閉会することができた。改めて御礼を申し上げますとともに、今後の本会の益々の発展を祈念する所存である。

一般社団法人日本老年歯科医学会第28回学術大会
準備委員長 上田貴之
(東京歯科大学老年歯科補綴学講座)